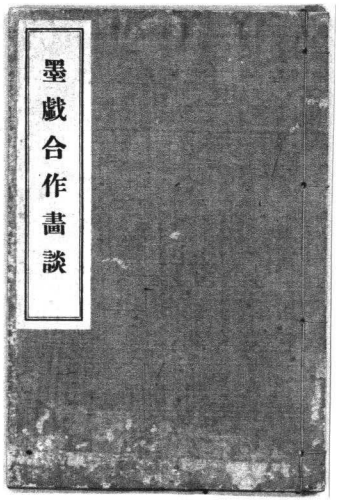萩原石齋　はぎはらせきさい　南畫家。天保十二年一月生れ、大正期歿（一八四一―）。通稱與次郎。初號嘯竹。父鶴夫は堅石能舍と號した國學者。少時柴田泰山に岸派を學ぶも、安政六年緯水雲に就き南宗畫に轉ず。明治元年靜岡藩木村二梅に書を習ひ、翌年藩權大參事大久保一翁より石齋の號を授與せらる。十五年田能村直入來遊の折教導を受け、その法を加味して一家を成した。爾來各地繪畫展覽會共進會へ出陳、賞狀賞牌十八に及ぶも、のち專門畫家に非ずとして審査を免はず。また西洋畫に比して東洋畫を學ぶ者の減少を憂へ、その奬勵を目的とした『墨戲合作畫談』（大正十四年八月二十三日印刷、靜岡・私家版）を書き遺した。